会議案第　３９　号

治水対策に関する中間報告について

本特別委員会の調査検討した内容について、会議規則第７７条の規定により、次のとおり中間報告いたします。

平成２５年３月２２日報告

治水対策特別委員長　　越　路　　等

長沼町議会議長　　駒　谷　広　栄　　様

治水対策に関する中間報告

長沼町の歴史は、水害との戦いの歴史である。頻発する水害によって、農業生産はもとより、商工業、地域住民の日常生活すら脅かされるほど大きな被害を受け、町の福祉増進及び発展に大きな障害となっている。

このため、治水対策特別委員会では、長沼町の治水対策についての調査、研究を進めてきたところであるが、その結果を次のとおり報告する。

１　現況と問題点

長沼町は石狩低地帯のほぼ中央に位置し、地形を大別すると東側約２０パーセントは山地丘陵部で、標高２９４．２メートルを最高に西に向かって急傾斜後、緩やかな段丘を経て山頂から約３キロメートルで平野部に達する。西側約８０パーセントは平野部で、最低標高５．５メートルと極めて低地で平坦である。

この平野部を囲むように南に千歳川、西に旧夕張川、北に夕張川が流れ、千歳川、夕張川は石狩川に合流し日本海に注いでいるが、特に本町の低地帯を流下する千歳川は勾配が極端に緩やかなため流速が遅く、合流点の石狩川の水位の影響を強く受け、加えて各支川の整備によって洪水時の流出が速く、急激に本川水位が高くなるため、長沼町内各支川の自然流出が困難となり、内水氾濫による湛水被害の要因となるところから、強制的内水排除に頼らざるを得ない状況である。

町内の内水排除施設は現在、千歳川に排水するもの６箇所、毎秒排水量７４．６３立方メートル、旧夕張川に排水するもの４箇所、毎秒排水量５８．１０立方メートル合計１０箇所で毎秒排水量１３２．７３立方メートルの能力を有している。

これらの排水施設は、千歳川の水位の状況によって排水規制を受

ける。また、長沼町の地形は、中上流部に低平地が分布している地形特性のため、丘陵部に降った雨は短時間で平坦部に達し、中小規模の降雨でも大きな被害を受ける。

これらに対処するため、本流との整合性を図りながら、町内主要河川の早期改修、永年経過した樋門（水門）の拡幅改修及び排水機場の能力についての調査検討が必要と思われる。

２　今後の治水対策

舞鶴遊水地は内水調整機能を持った本町の内水対策に寄与する治水施設であり、国の重点事業として流域関係市町に先駆け本町が先行整備されているところである。

現在、掘削工事が実施されているが、平成２１年９月の局地的豪雨、平成２２年８月の台風による大雨、平成２３年９月の低気圧による前線及び台風１２号、１３号、平成２４年９月の前線通過による降雨において、工事中である掘削箇所に南９号川の流水を通水して貯留させたことにより、流域の浸水を防止、軽減し、完成前からその効果が実証されたところであり今後においても早期完成を望むものである。

また、将来における遊水地の利活用については、遊水地利活用計画検討委員会の答申書に基づき治水機能を損なわない形で、地域の自立的・持続的な発展のために有効に活用されることを期待する。

本町は極めて洪水に弱い地形・地質特性であるところから、抜本的治水対策としては、次に掲げる項目についての早期実現並びに千歳川流域治水対策整備計画における各種内水対策の実施をはじめ、当面の対策として、河道の掘削、浚渫等を進める一方、長沼町の現状に合った治水対策の推進が必要と考える。

一　千歳川の抜本的な治水事業の早期完成

・千歳川河川整備計画に基づく各種事業の早期完成

一　千歳川の継続的な河道浚渫促進

一　石狩川の河川改修及び洪水調整機能の整備促進
一　南六号川河床堆積物の除去促進
一　南九号川河川改修の早期完成
一　南九号排水機場の改築工事の早期完成
一　旧夕張川及び馬追運河流域の総合的治水対策の促進
・西幌堰堤（ラバーダム）の改築を関係機関に要請
・馬追運河排水機場及び水門の整備促進
・馬追運河の床下げの促進
・馬追運河排水機場周辺築堤の草刈促進
・南四号半排水機場の整備促進
・馬追運河へ流入する各支川の整備促進
一　山根川の早期改修
一　新長追川の早期整備促進
一　普通河川の改修促進及び排水路の機能確保
一　東一線放水路の洪水時における整備目的に沿った有効的な活用
一　河川及び排水路機能保持のため、廃棄物不法投棄の防止、清掃促進及び動植物の生態系保全など、住民の河川愛護精神の高揚
一　効率的治水事業推進のための住民の理解と協力の要請
一　治水事業推進のための財源確保を国及び北海道に要請